

氏名	田中 健一	部署	共通教育科	職名	教授
研究分野	神経科学（生理学・薬理学・病態生化学・実験心理学）・社会薬学				
学位	博士（医学）・薬学修士				
学歴	1989年：東京理科大学薬学部薬学科卒業，1991年：東京理科大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了				
経歴	1995年：埼玉医科大学医学部助手，1998年：岡山大学医学部助手，2003年：就実大学薬学部助教授， 2007年：就実大学准教授，2011年：埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授，2019年：同教授，現在に至る				
所属学会（役職）	日本生理学会（評議員）・日本薬理学会（学術評議員）・日本神経精神薬理学会（評議員），日本社会薬学会（代議員）他				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	思春期の生理痛とその対処法について	単独	あり	健学社、ページ（44-45）	学校保健教育研究会	2023.12
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	大学生等を対象とした自尊感情・反すう特性が依存形成に与える心理的特徴に関するアンケート調査研究	共同	第58回日本アルコール・アディクション医学会学術総会（札幌）		○田中健一，佐藤晋爾，金野倫子	2023.10
2	薬害教育の課題に関する考察：看護薬理学からの視点	単独	第97回日本薬理学会年会（神戸）		○田中健一	2023.12
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	生理学	○	16コマ・2開講	複数の学科専攻の学生を対象とした必修科目である点を考慮して，授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し，学生の理解を助けるとともに，学習意欲の維持に努めた．2023年度はコロナ禍での経験を活かして，対面授業にオンデマンド配信を組合せたハイブリッド型授業で実施することで教育効果の向上を試みた．		
2	薬理学	○	8コマ	健康開発学科の学生を対象とした必修科目である点を考慮して，授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し，学生の理解を助けるとともに，学習意欲の維持に努めた．2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ，対面授業で実施した．		
3	看護薬理学	○	16コマ	看護学科の専門必修科目である点を考慮して，授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し，学生の理解を助けるとともに，学習意欲の維持に努めた．2023年度はコロナ禍での経験を活かして，対面授業にオンデマンド配信を組合せたハイブリッド型授業で実施することで教育効果の向上を試みた．		

4	臨床薬学	○	8コマ	理学療法学科及び作業療法学科の学生を対象とした必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、対面授業で実施した。
5	生理学特論	○	16コマ	生理学を踏まえた理学療法学科並びに作業療法学科の専門必修科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、対面授業で実施した。
6	ヒューマンケア論		1コマ・2開講	IPE科目の入門科目として、全学科全専攻の1年生に向けた授業の中で、保健医療福祉分野における、専門職やその学問領域の意義・使命・役割を理解する一環として、ヒューマンケアの視点から考える共通教育について、共通教育科を代表して講義した。
7	保健医療福祉研究法特論		2コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<医科学研究法>に絞って授業を行うことで、学生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。2023年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
8	応用人体構造機能論		2コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、2コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<自律神経系>に絞って授業を行うことで、院生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。2022年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
9	保健医療福祉学際英語		1コマ	大学院博士前期課程の共通科目であることに加えて、1コマのみ分担する点を考慮して、特定のテーマ<実践編1>に絞って授業を行うことで、院生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。
10	臨床薬理学	○	10コマ	大学院博士前期課程のCNS科目であることを考慮して、専門看護師にとって必要な臨床薬理学の基本的な知識の確認と最新の知見を含む専門性の向上を目的とした授業を行うことで、院生の理解を助ける工夫と学習意欲の維持に努めた。2023年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
11	高次脳機能と病態制御	○	8コマ	大学院博士前期課程の共通科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、院生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2023年度はコロナ禍での経験も踏まえて、ライブ配信にオンデマンド配信を組合せた遠隔授業で実施した。
12	加齢神経運動機能論	○	4コマ・2開講	大学院博士後期課程の共通科目である点を考慮して、授業ごとにポイントをまとめたプリントを作成し、学生のニーズを初回授業で確認し、出来る範囲で授業に反映させて、学習意欲の維持に努めた。2023年度はオンデマンド配信による遠隔授業で実施した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	理学療法特別演習		1コマ	理学療法学科の4年生を対象とした国家試験対策を意識した専門必修科目で、1コマだけ、生理学等について担当した。過去問ベースの練習問題を作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。
2	作業療法総合演習		1コマ	作業療法学科の4年生を対象とした国家試験対策を意識した専門必修科目で、1コマだけ、生理学等について担当した。過去問ベースの練習問題を作成し、学生の理解を助けるとともに、学習意欲の維持に努めた。

(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	生理学実習（理学療法・作業療法）	○	8コマ	理学療法学科及び作業療法学科向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、対面と自宅のハイブリッド型実習方式で実施した。	
2	生理学実習（健康行動）	○	8コマ	健康開発学科行動科学専攻向けの内容で、学生が興味を持って実習できるように内容を工夫するとともに、基盤となる座学の知識と結びつくような指導を心掛けた。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、対面と自宅のハイブリッド型実習方式で実施した。	
3	ヒューマンケア体験実習	○	2021.4-9	科目責任者として第11グループを総括するとともに、総括・主任科目責任者を補佐した。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して、オンラインで実施した。	
(4) 論文指導					
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数		
1	卒業論文	通年	主指導 1名	副指導 0名	
2	修士論文	通年	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 1名	
3	博士論文	通年	主指導（指導教員） 1名	副指導（指導補助教員） 10名	
(5) その他					
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	埼玉県立大学における生理学・薬理学等の基礎医学科目に関する学習支援	通年	再履修の学生を中心に、授業時間外の補習授業の実施と学習支援のための指導を行っている。		
2	博士前期課程における修士論文審査	通年	主査1名		
3	博士後期課程における博士論文審査	通年	副査1名		
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月	
1	出張講座（上尾市立上平中学校）	埼玉県立大学	ヒトはなぜハマるのか	2023/10/9	
2	出張講座（埼玉県立越谷北高校）	埼玉県立大学	ヒトはなぜハマるのか	2023/11/16	
3	出張講座（埼玉県立白岡高校）	埼玉県立大学	ヒトはなぜハマるのか	2023/12/21	
4	出張講座（国際高等学院草加校）	埼玉県立大学	ヒトはなぜハマるのか	2024/1/12	
5	出張講座（埼玉県立川口工業高校）	埼玉県立大学	ヒトはなぜハマるのか	2024/3/18	
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期	
1	日本神経精神薬理学会		交流促進タスクフォース委員	2023年度	
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称			内容	年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容	期間	
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容			期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	共通教育科長			2023年度
2	全学的委員会及びセンター業務等	教育研究審議会委員			2023年度

3	全学的委員会及びセンター業務等	学長選考会議委員	2023年度
4	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会（動物部門） 副部門長	2023年度
5	全学的委員会及びセンター業務等	専門基盤科目担当者会 会長職務代理	2023年度
6	全学的委員会及びセンター業務等	大学院教務委員会 委員	2023年度
7	全学的委員会及びセンター業務等	共同実験管理部会 部員	2023年度
8	大学広報活動	高校訪問への参加（2校）	2023年度
9	大学広報活動	オープンキャンパスへの参加（6月・8月）	2023年度
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	有害物質等管理主任者として，有害物質等研修会・講師，並びに，見回りを担当し，本学の有害物質等の適正管理に貢献した．		
2	日本生理学会が認定する生理学エディューケーターより，新設された卓越生理学エディューケーター（2024年1月1日付）に認定された．		